

交通のハブとしてのリニア岐阜県駅の役割

名古屋大学未来社会創造機構 教授 森川 高行

- この地域には、東から天竜川、木曾川、飛騨川、長良川と大河川があり、それらの谷と谷の間には険しい山地があり、谷筋同士を分断している。
- リニア新幹線は、天竜川谷の飯田と木曾谷の中津川をつなぐもので、この山越えはすでに道路では中央道の恵那山トンネルでつないでいる。
- 中央道は名古屋方面から木曾谷沿いに走っているが、中津川で東にルートを変えて恵那山トンネルを経て、天竜川谷にルートを変えている。
- 木曾谷には、JR 中央西線と中津川までは中央道と国道 19 号線という高いサービスレベルの交通路があるが、中津川以北は、中央西線もダイヤが減り、道路も中央道が無くなり、一挙に交通路のサービスレベルが低くなる。ただ、この谷沿いには中山道の宿場町や木曾川の溪谷美があり観光地としてのポテンシャルは高い。
- 飛騨川谷は、JR 高山線と国道 41 号線が通り、下呂、高山、飛騨古川という大きな観光資源がある。鉄道も道路もサービスレベルはさほど高くない。
- 長良川谷は、鉄道は無いが、東海北陸自動車道があり、郡上八幡や白川郷といった観光資源がある。
- このように中津川は、リニア開通後は、関東方面だけでなく、天竜川谷とのつながりが一挙によくなる。一方、中津川以北の木曾谷や、飛騨川谷、長良川谷との移動利便性は低いままであり、この改善がリニア岐阜県駅の生命線になる。
- この課題を大きく改善するのが、中津川と飛騨川谷、長良川谷を結ぶ濃飛横断自動車道であり、リニア効果を岐阜県に行き渡らせるには早期の全線整備に全力を使うべきであろう。
- また、大雨で度々被災して通行止めとなった下呂以北の国道 41 号の耐災性の強化と、中津川以北の国道 19 号線のサービスレベルアップにも力を注ぐべきではないか。
- このような魅力的な谷筋の町に便利にアクセスできることが、観光だけでなく、リニア岐阜県駅周辺への研究機関やサテライトオフィス等の誘致にも効果があろう。